あおぞら財団　年次報告書

Vol.8

2004.4～2005.3

もくじ

あおぞら財団事業報告書から　2
第Ⅱ期道路環境市民塾　4
いよいよオープン間近の資料館　5
講演会「ぜん息治療の最前線」を開催　6
子どもたちとすすめる「たんけん」　7
財政状況　8
寄付・寄贈者　委託助成事業等一覧　9
あおぞらビル紹介　10
役員・職員　12

2005年9月

財団法人　公害地域再生センター（あおぞら財団）

2004（平成16）年度 事業の概要

2004年度は、㈲あおぞら会館（西淀川公害患者と家族の会が出資して設立）と共同で旧三洋ビルを購入し、風力発電機の設置や光触媒の塗布、外壁に森が豊かな自然を育てることをイメージした壁画を描くなど、環境に配慮した「あおぞらビル」として面目を一新させた。また、そのお披露目を兼ねた千舟地域を対象にした地域懇談会の開催や、エコドライブの実験を通して地元運輸業者や行政との繋がりを広げるなど、公害根絶と地域再生に向けた土台作りを行うことができた。

さらに、講演会「ぜん息治療の最前線」を300名を超える参加者で成功させ、環境保健の分野でも新たな事業展開の展望を広げることができた。

こうした事業や取り組みの蓄積、経験は、財団に求められている責務から見れば、まだまだ端緒的なものではあるが、今後の財団発展の方向性を示すものとして、貴重な財産となるものである。

❶ 部門別事業

（1）公害のない住みよい地域づくりを進める活動（地域づくり）

①道路環境対策を中心とした地域再生の取り組みの推進

【西淀川道路環境対策検討会の実施・運営】

【第Ⅱ期道路環境市民塾の開催】

【事業者参加によるエコドライブ実証実験調査及び「交通と環境を考える会」の開催】

エコ・ドライブ～中・近距離の実証実験に取り組みました

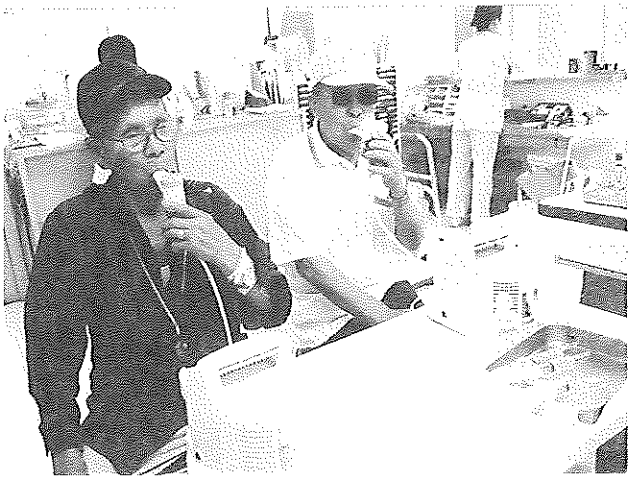
②ヒートアイランド対策の推進

③西淀川再生プロジェクトの実施

（2）公害病患者等の健康回復や生きがいづくりを進める活動（環境保健）

①公害病患者の生活実態を把握する事業

【公健法による被認定者の生活実態に関するアンケート調査結果の分析】



毎日の「吸入」で始まる公害患者さんの生活実態に迫りました

【フォローアップ調査】

【公健法主管課へのヒアリング調査】

【公害医療機関へのアンケート調査】

②公害保健福祉事業モデルプログラムの検討・実施

【水中リラックス教室プロモーション映像作品の作成】

【西淀患者会園芸クラブ】

【西淀患者会転地療養事業】

【西淀患者会介護支援ニーズ調査】

③ぜん息予防・治療に関する情報発信

【講演会「ぜん息治療の最前線」の開催】

【公害健康被害予防事業に対するニーズ調査】

④環境と花粉症に関する研究への協力

(3)公害の経験や地域の歴史を活かした環境学習(環境学習)

①公害の経験をもとにした総合的環境学習

ウォーキング愛好家の皆さんの協力でマップづくり。
オープニング大会を開きました

②参加型アセスメントの普及

③徳島市環境リーダー養成講座の企画・運営

(4)公害の経験を伝えるための資料保存・活用(資料保存)

①公害問題資料の保存と活用

②情報発信とネットワーク形成

・リバティおおさか(大阪人権博物館)「西淀川公害被害者」コーナーへの企画協力、資料提供

・シンポジウム「地域資料の保存と活用を考える」の活動

・西淀川地域研究会の開催

❷ 広報・活動交流

機関紙リベラ(隔月)、年報の発行。ホームページ、あおぞらエクスプレスによる情報発信

❸ 組織活動

(1)理事会、評議員会

2004年6月14日に第14回評議員会、6月20日に第23回通常理事会を開催。

2004年8月より、村松昭夫理事が週2回程度、財団活動に専念することになり、事業と活動の推進体制が強化された。

2005年2月18日に第15回評議員会、3月13日に第24回通常理事会を開催。

(2)事務局

事務局職員については、片岡法子研究員の退職にともない2004年7月から藤江徹研究員を採用し、道路環境対策や西淀川再生プロジェクトなど地域づくり部門を担当した。また、2005年3月末で達脇明子研究員が退職した。

(3)賛助会員

会員は、個人149、法人・団体39(2005年3月)で、この1年は大きな変化はない。

2004年11月から「お試し会員」制度による働きかけを実施、一定の成果が生まれた。

(4)協力者・受入

2004年8～9月の間に、(財)大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラムパブリックコースから4人、桃山学院大学社会学部から1人の合わせて5人のインターン実習生を受け入れた。

インターン生紹介

冨岡　麻衣(桃山学院大学)
安藤　菜採(同志社女子大学)
勝谷　拓朗(京都文教大学)
広瀬　玲奈(京都教育大学)
山田　玲子(京都工芸繊維大学)

地元の西淀中学校(2004年6月18日)および、佃中学校(2004年7月9日)からの職場体験の受入をおこない、財団の活動や業務を体験する機会を提供した。

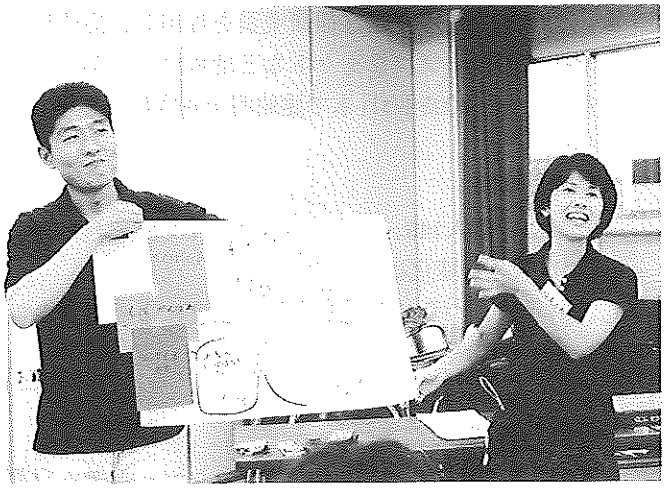
ホームページのリニューアルについては、ボランティア4人による担当チームを新たに立ち上げ、検討を進めた(2004年10月31日、12月23日、3月6日)。

❹ 財務

財団財政は依然厳しい状況が続いている。当初予算どおりの収入をめざして努力をしてきたが、建物の修繕を除外すると、900万円の資産を取り崩す結果となった。今後の事業展開の方向や自主財源の獲得方法、基金の活用等を含めた先を見通した計画が必要である。

環境省の指導により内部留保率を30%とするため、運用財産の内3,680万円を環境再生事業基金として積立てた。

第Ⅱ期道路環境市民塾
～続・クルマ依存社会を考える～



昨年度に引き続き、今年も開催された「道路環境市民塾」。道路・交通問題について、市民の視点から考え、行動できる人づくりを目指した講座として設立されました。

全４回の講座は、ボランティアで参加していただいている運営委員の方々が練りに練ったプログラムで行われ、好評のうちに終えることができました。

第二期講座に参加いただいた皆さま、ありがとうございました。詳しい記録は今後ＨＰ等で公開していきます。第三期も開催予定ですので、ご期待下さい。

〈講座の内容〉

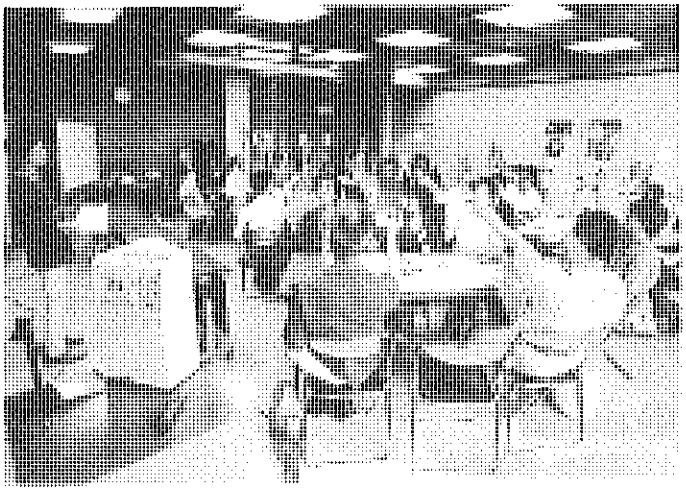
第一回（9/4）「21世紀どう変える？クルマ社会」では、３名のゲストがそれぞれの立場（市民、自動車メーカー、専門家）から講演し、参加者も交えたパネルディスカッションを行いました。（写真）

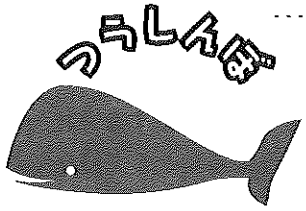
第二回（11/27）「測定・体験・Ｒ43公害～考えよう阪神間の交通と将来像～」では、実際に、参加者自身が国道43号の騒音や大気汚染を測り、公害の「いま」を体感するとともに、阪神間の大気汚染の移り変わりをブロックを使って学び、今後についての意見交換を行いました。

第三回（1/22）「ある日突然！道路建設の話が…。あなたならどうする？～私の街に大きな道路が通ったならば～」では、実際に道路建設問題が起こった地区を想定し、参加者が住民になりきって、模擬交渉を行いました。当日は、運営委員の迫真の演技で、会場は現場さながらにヒートアップしました。

第四回（3/12）「西淀川で交通まちづくりを考える」では、西淀川区を舞台に、フィールドワークを行い、これからの「交通まちづくり」についての提案づくりを行いました。　（藤江　徹）

発表あり、投票あり、参加者も楽しいワークショップ（写真上も）





世間のワークショップといえば、まちあるきが定番（マンネリ化？）になっています。２年目をむかえた道路環境市民塾では、そんな現状に一石を投じる、あおぞら財団ならではのプログラムが行われました。これからは、プログラムを地域に根ざして多様なテーマをするのか、それともテーマを絞っていろんな地域でも実施できるようにするのか、方向性を考えてく必要がありますね。期待しています。

（大阪大学　松村暢彦）

いよいよオープン間近の資料館

こんなことをやりました

1996年から開設している「西淀川地域資料室」を2006年1月に「資料館」としてあらたに発足させることをめざして、11月から毎週金曜日を資料利用日と定めて試行的に運営を開始しました。毎週というわけではありませんが、研究者や大学生、学校教員の方々が利用しています。地元関西だけではなく中には遠方から来られる人もあります。

リバティおおさか（大阪人権博物館）のリニューアルオープン（2005年12月）にともなって新設される「西淀川公害と地域再生」コーナーへの資料提供などを西淀川公害患者と家族の会の全面的な協力を得ておこないました。このことは、映像や写真資料などのあらたな発掘につながっています。

2003年11月に開催した「シンポジウム地域資料の保存と活用を考える」については、その後準備研究会を重ね、2005年3月には第２回目のシンポジウムを開催し、行政や民間といった立場の違いをこえたネットワークがうまれつつあります。

他地域との環境比較をするためにつくったイチョウの標本
（昭和45年）～西淀中学校資料より～

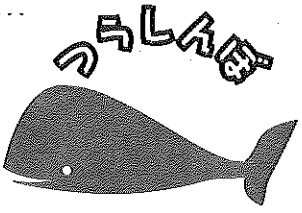
小田康徳氏主宰の「西淀川地域研究会」はすでに20回を越え、最近では1960年代、70年代の西淀川地域を知る方々にスピーカーをお願いし、当時の生々しいお話を聞きながら所蔵資料を理解する活動を重ねており、参加者に広がりが出てきています。

～担当者から～

書庫に眠っていた8ミリ・テープをDVDにしたことで、驚きの映像を見ることができました。それは、29年前の第１回公害被害者総行動デーの映像でした。総行動とは、毎年6月に全国各地から公害・環境問題と闘う被害者や支援者が霞ヶ関に集まり省庁交渉をおこなうもので、現在も続いています。各地から集まった人々の真剣なまなざしは今も昔も変わりません。（鎗山善理子）

8mmテープには貴重な映像がいっぱい

よくできています。がんばってください。西淀川地域研究会の時に、見せていただいた西淀中学校の荒木校長の資料からは、大変生々しい当時の様子がリアルにわかりました。これは生の資料の迫力といえるでしょう。西淀川公害患者と家族の会資料など、たくさん集められたこのような資料を、今後具体的に調査研究していくことによって、1970年代前後から90年代にかけての大気汚染問題の実情や運動、暮らし、意見などを解明できればと思います。（談）　（小田康徳）



講演会「ぜん息治療の最前線」を開催

ぜん息患者は増加しています。厚生労働省の患者調査（2002年度）では、約106万人の患者がぜん息に罹患、文部科学省の学校保健統計調査（2004年度）では、ぜん息児が10年前の約2倍近い水準となり、特に小学生のぜん息児の割合が3.1%に増えていることが分かっています。

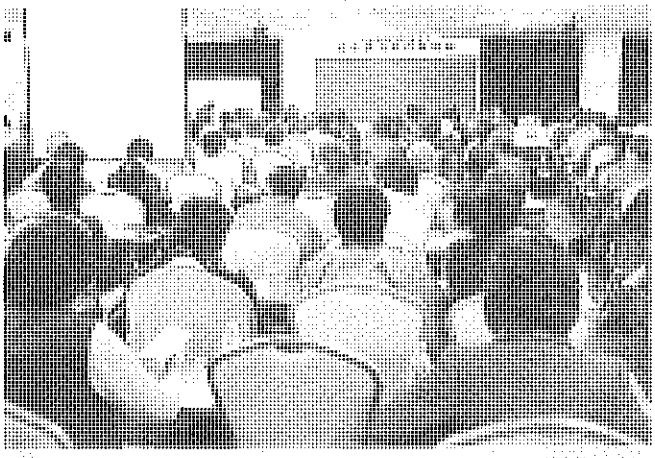
増加するぜん息等の発症を予防し、治療や健康回復に関する幅広い知識の普及を図ることをめざして、財団では、独立行政法人環境再生保全機構の委託を受けて、専門医による講演会を企画しました。また、患者さんや家族の方、医師や看護師、学校の先生等から、機構が作成した、パンフレットやビデオについての感想を聞き、意見を求めました。

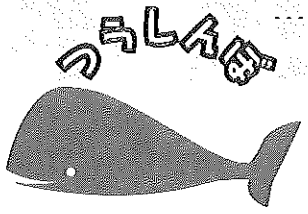
患者さんの日常生活の向上に少しでも役立つよう、日頃、病気のために困っていること、悩んでいること、知りたいと思っていることを、事前に電話や書面で聞き、質問項目として集約しました。

講演会では、集まった「生の声」に応えられるよう近畿大学医学部堺病院副院長の長坂行雄先生と、大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター小児科部長の土居悟先生から、「ぜん息治療の正しいあり方」をテーマとしたレクチャーと、川崎美榮子先生（医療法人此花博愛会伝法高見診療所所長）の司会で、「ぜん息のセルフケアをめざして－疾病管理の考え方－」をテーマに、パネルディスカッションを行いました

320人の参加者からは、「新しい治療方法に関する最新の知識が得られた」、「自分が受けている治療内容が良く分かった」、「なぜ、ぜん息が起こり、どのような治療が必要なのか、よく理解できた」、「薬を使うことへの不安がなくなった」等の感想が寄せられました。

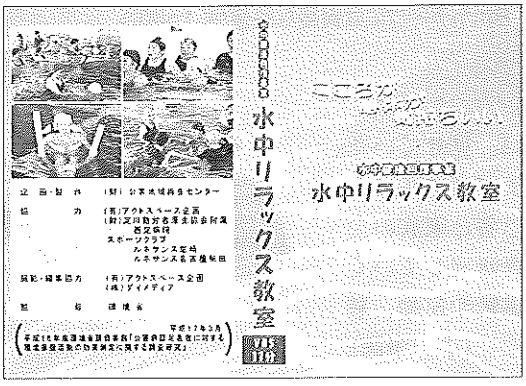
今後も、「ぜん息の講演会に、多くの参加者が集まるということは、それだけぜん息で悩んでいる患者が多い状況を反映していると思う。」、「こうした講演会をたびたび開催して欲しい。」との声に応える取り組みを継続していきたいと考えています。（矢羽田薫）





この講演会は、あおぞら財団の下で企画が充分に練られ、講演の内容ばかりでなく、託児所の設営など行き届いた運営が好評でした。講演の主眼は「ぜん息が気道の炎症性疾患である」ということを理解すれば喘息管理はよりよくなる、ということです。「自分の病気が良く理解できた」「ステロイド吸入の重要性がわかった」との反応が多く、我々の意図が十分に伝わったと思います。すばらしい企画と運営に感謝しています。評価は優です。

（近畿大学医学部堺病院呼吸器科　長坂行雄）



水中でリラックス！　ビデオができました

公害病の認定患者さんに、水中での運動を通じて、健康づくりに取り組んでもらおうと、ビデオを作成しました。

水に入るのが不安な人、運動が苦手な人でも、水の中では、身体に負担がかからず、自分のペースで、少しずつ水になじんでいくよう運動を進めることができます。また、ピンポン玉や風船等、様々な道具を使った呼吸訓練を行いますので、楽しみながら、身体が楽になる効果を体験できます。

ビデオでは、実際の教室の様子や参加者へのインタビュー、水中運動の効果を紹介しています。是非、ご活用下さい。

子どもたちとすすめる「たんけん」

毎年続けている大野川緑陰道路でのタンポポ調査

西淀川区内を南北に貫く大野川緑陰道路をフィールドに、子どもたちに、身近な自然に触れ・見つけ・味わい・好きになってもらう活動を始め始めたのは2002年の暮れ。

まずは緑道の良さを感じてもらおうと、五感を使った自然観察を西淀自然文化協会の皆さんの指導で体感した。また春の調査にあわせて毎年、緑道のごく一部に自生するカンサイタンポポさがしにも挑戦した。（2003年3月）

好きなところ、嫌いなところへのシール貼りと、その理由を大きな地図に書きとめることも忘れなかった。後になって子どもたちを喜ばせることになる緑道の入り口改善（車いすの友達が通れなかった階段が欲念にスロープに）は、このときの体験と発見がきっかけだった。

2004年4月に実施した調査では、前回調査をふまえて子どもたち自身の主体性を引き出そうと利用者インタビューに取り組むことになり、インタビュー項目とシートづくりは子どもたちが担当した。

2004年8月の調査は、春の調査に加えてセミの抜け殻調査を加えた。

三回目ともなると発表もうまくなり、各グループの個性あふれる発表に会場が沸いた。またこの日参加した二人の大学生（インターン）が、子どもたちの思いを伝える通訳者として活躍した。

こうした「たんけん」の積み上げは、子どもたちの自然や環境に対する見方や接し方を変えているようだ。身のまわりの木々や草花の変化にいち早く気づく、遊びに取り込む、セミの抜け殻に興味を持って違う種類のものを次々と発見する子どもも現れた。また子どもたちは毎年一部が入れ替わるので継続も重要となる。

> カラー道路で、いろいろな種類のタンポポを見つけました。それは、白花タンポポとカンサイタンポポとセイヨウタンポポという種類がありました。
>
> わたしは、はじめて、その赤身タンポポと白花タンポポをみて、すごくビックリしました。
>
> わたしは、「こんな種類はじめてみたよ！！」と、おもわずこういってしまいました。
>
> タンポポのかんさつみたいになって、たのしかったです。またこういうのをしてみたいと思っています。
>
> （４年生　山本夏帆）

調査を進めてきた子どもたちは2005年、自分たちの身のまわりの公園や遊び場の調査を始めた。二酸化窒素の測定や雨水の酸性度しらべ、樹木の健康診断では、区内にたくさんあるクスノキを選んだ。

担当者から

子どもたちによる調査と活動は「まち」の良さを見つけ出すと同時に、安心して過ごせる「まち」への課題やいまの「まち」が抱える問題点を引き出してくれるにちがいない。「たんけん」の初心を忘れず子どもたちと息の長い活動を続けたい。

（上田敏幸）

身近な木·クスノキ調べに挑戦（姫島神社で）

クスノキの診断

クスノキを知ってる？誰も反応なし。

この公園で一番大きな木だよ！ヒマラヤスギを指し示した。診断うまくいくかなぁ。

余り話しも聞いてない様子だし。

グループに分れ、枯れ株を削り匂う、切り株の年輪、ダニ部屋の話、戦争中の焼け焦げ跡を見て、診断シートを作った。最後の発表では、どのグループも興味のあった視点から話していた。頼もしい！！次回はみんなで、この診断結果を回診しよう。

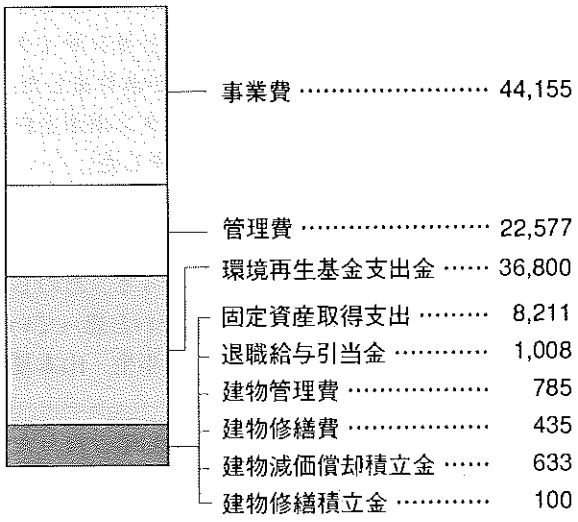
（樹木医・修景造園設計事務所代表　福田壌嗣）

（2004年4月1日～2005年3月31日）

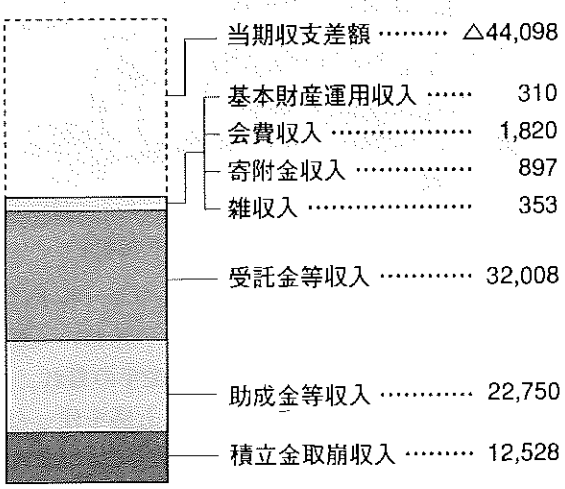
●当期収入・支出の状況

（単位：千円）

支出　合計　114,764



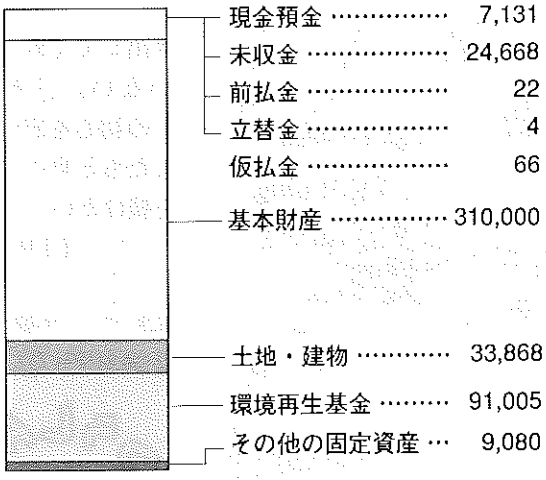
収入　合計　70,666



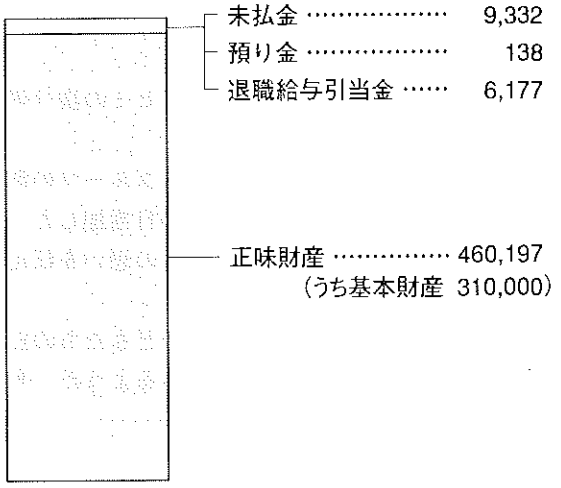
●貸借対照表

（単位：千円）

資産　合計　475,844



負債・正味財産　合計　475,844



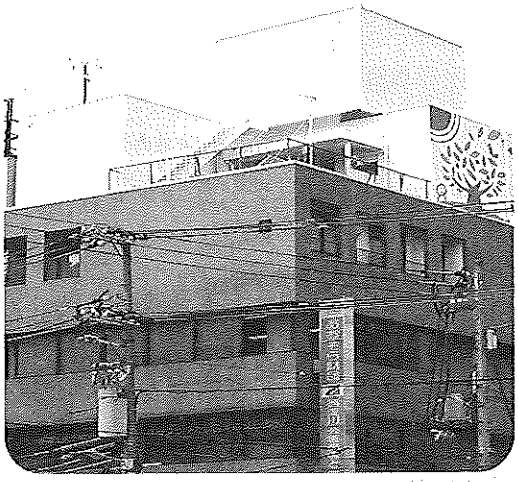
2004年度寄附・寄贈者

青木　智弘
尼崎ひと・まち・赤とんぼセンター
荒井　真
井奥　圭介
池上　甲一
池田　佳子
井関　和彦
植田　和弘
上田　幹枝
上杉　剛
饗庭　伸
遠地　昭典
遠藤　宏一
逢坂　隆子
大阪歴史学会
大阪歴史博物館
大西　良一
岡崎　久女
岡田　知弘
岡林　一夫
小田　康徳
笠井　俊彦
傘木　宏夫
片岡　法子
加藤　恒雄
金谷　邦夫
神長　唯
木村紀美代
熊野　實夫
熊本学園大学出版会
黒岩　晴子
交通エコロジー・モビリティ財団
(財)国際エメックスセンター
小島　伸豊
兒山　真也
小山　仁示
是枝　洋
佐賀　朝
酒井　健一
坂西　卓郎
坂本美頃子
佐野　郁夫
澤井四志郎
篠原　義仁
芝村　篤樹
庄谷　邦幸
震災・まちのアーカイブ
須田　滋
炭谷　茂
全大阪生活と健康を守る会連合会
高橋　隆雄
高橋理喜男
竹中　正典
田中　鈴代
田中　千
田中　久幸
田村　献治
千葉　修
辻川　郁子
堂見　敏雄
富田　重行
(財)トヨタ財団地域社会プログラム
長井　聖治
中島　晃
なにわ保健生活協同組合
西口　勲
西須磨都市計画道路公害紛争調停団
西淀川高校
西淀川公害患者と家族の会
西淀川中学校
新田　保次
(株)日本評論社
長谷川慧重
畑　明郎
林　曠子
馬場　明男
早川　光俊
福島公害患者と家族の会
福富　和夫
福本　富男
牧　洋子
松井　克行
松　光子
松村　暢彦
みなと公害患者と家族の会
三村　浩史
三宅　宏司
村松　昭夫
森脇　君雄
薬害ヤコブ病被害者・弁護団全国連絡会議
安村　博文
(株)山崎シャーリング
除本　理史
立命館大学国際平和ミュージアム

2004年度委託・助成事業等一覧

委託・助成元	事　業　名
(独法)環境再生保全機構	公害健康被害予防事業の普及促進に関するニーズ調査業務
(独法)環境再生保全機構	地球環境市民大学校「市民活動のための環境アセスメント講座」研修業務
徳　島　市	環境リーダー養成講座コーディネート業務
(財)日本公衆衛生協会	大気汚染と花粉症の相互作用に関する調査研究業務
環境省自動車課	大都市立地事業者による環境負荷排出低減等検討業務
環境省大気生活室	良好な大気生活環境推進手法調査検討業務
環境省保健業務室	公害病認定患者に対する環境保健活動の効果測定に関する調査研究業務
西淀川公害患者と家族の会	西淀川地域道路環境対策推進活動助成事業
西淀川公害患者と家族の会	西淀川公害患者と家族の会会員の介護支援に関するニーズ調査助成事業
西淀川公害患者と家族の会	公害問題と公害患者の被害伝承活動助成事業
西淀川公害患者と家族の会	大気汚染公害問題資料の保存と活用活動助成事業
西淀川公害患者と家族の会	西淀川公害患者と家族の会会員の園芸活動支援助成事業
(独法)環境再生保全機構	公害経験に関する総合的な環境学習助成事業
イオン環境財団	環境保全活動助成事業
住　友　財　団	大気汚染公害問題資料の保存と活用に関する調査研究助成事業

あおぞらビルの紹介



■ 光触媒による大気汚染の浄化

あおぞらビルの1階から6階まで、すべての外壁面には、超親水性光触媒コーティング材が使用されています。ビルの総面積約900平方メートルで、ポプラの木約11本分のNOx（窒素酸化物）を除去することができます。

■ 風力発電機を設置

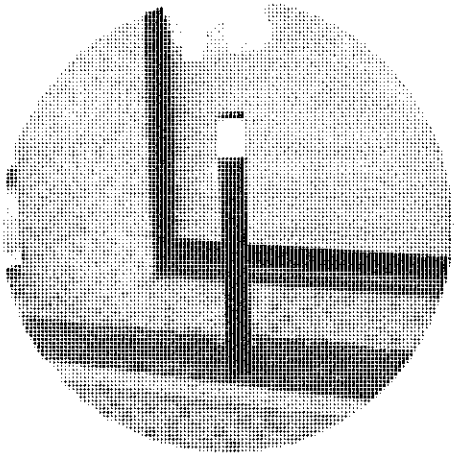
あおぞらビルの6階屋上に風力発電器を設置しました。（商品名：サイレント風力発電機Z-501、ゼファー製）。

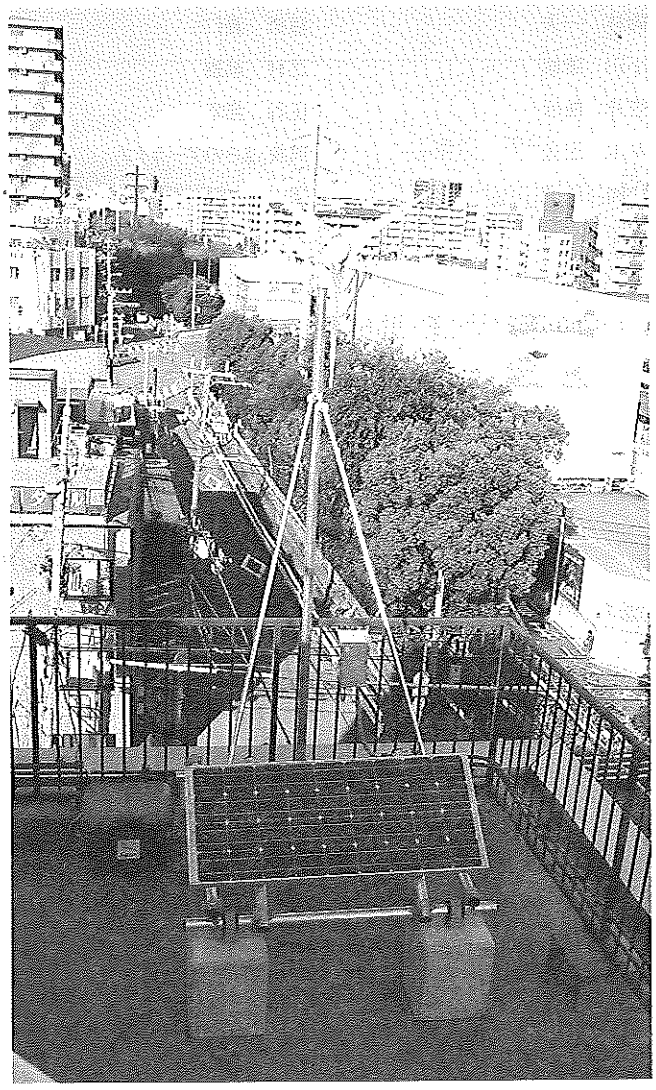
プロペラ面の直系は1170ミリメートル、重量6キログラムです。

風車の下には、約0.6平方㍍の太陽光発電用のパネルを設置しています。

両方を合わせた一ヶ月の発電量は平均10.7～21.5kWhになります。

蓄積された電気を利用して、ビルの1階にある1本の電灯（約20W）が、夜間に約6時間点灯します。

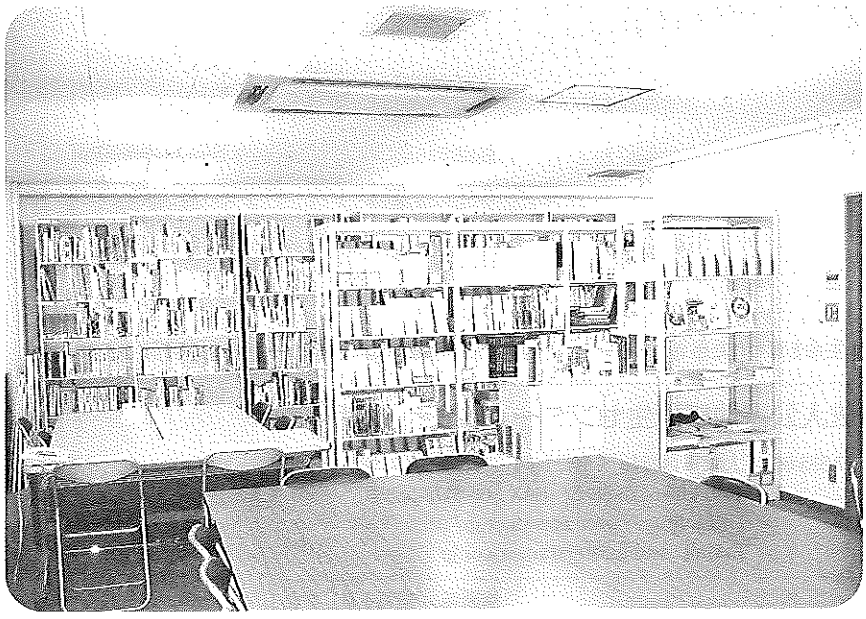




■ 壁画にクジラが出現　テーマは「森と海～つながる地球～」

歌島橋交差点からあおぞらビルを見上げると、太陽や樹木、クジラなどを描いた壁画が現れます。西淀川区全体を上から眺めると、クジラの形に似ていることから、イラストのメインをクジラにしました。壁画全体は、豊かな森が、豊かな海を創り、やがて魚や生物をはぐくんでいく、自然の循環をイメージしてデザインしました。

■ 西淀川地域資料の活用を！



あおぞらビルの6階には、西淀川公害訴訟など、大気汚染公害問題資料に関する資料があります。
(6階　保管庫　約20,000点)
また5階には、まちづくり、公害・環境問題、環境学習に関する図書を中心にそろえた西淀川地域資料室があります。
(約4,000点)

役員・評議員／職員
（50音順、敬称略）

理事長	森脇　君雄	（全国公害患者の会連合会代表委員、西淀川公害患者と家族の会会長）
専務理事	村松　昭夫	（弁護士）
理　事	アグネスチャン	（歌手、日本ユニセフ大使、教育学博士）
	植田　和弘	（京都大学大学院教授、環境経済学）
	金谷　邦夫	（うえに生協診療所所長、内科医師）
	塩崎　賢明	（神戸大学教授・同大学院自然科学研究科教授、都市計画）
	新田　保次	（大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻）
	早川　光俊	（弁護士、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議専務理事）
	宮本　憲一	（元滋賀大学学長、大阪市立大学名誉教授、環境経済学）
	森嶌　昭夫	（(財)地球環境戦略研究機関理事長、中央環境審議会臨時委員、名古屋大学名誉教授、法学）
監　事	熊野　實夫	（公認会計士）
	福本　富男	（弁護士）
顧　問	進士五十八	（東京農業大学教授、造園学）
	高橋理喜男	（大阪府立大学名誉教授、造園学）
	都留　重人	（一橋大学名誉教授）
評議員	太田　映知	（全国公害患者の会連合会事務局長、(財)水島地域環境再生財団理事・事務局長）
	岡田　知弘	（京都大学大学院経済学研究科教授）
	神吉紀世子	（京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻、農村計画）
	北元　敏夫	（西淀まちと自然の会幹事、森林生態学）
	小池信太郎	（公害・地球環境問題懇談会幹事長）
	高田　研	（岐阜県立森林文化アカデミー教授、環境教育）
	高田　昇	（立命館大学政策科学部教授、都市計画論、大阪都市環境会議幹事長）
	辰巳　致	（西淀川公害患者と家族の会事務局長）
	壷井　貞志	（環境保全事業協同組合理事長、関西バイオサイエンス協同組合理事長）
	津留崎直美	（弁護士）
	西村　弘	（大阪市立大学大学院経営学研究科教授）
	橋本　孝子	（ルーテル大学大学院社会福祉学専攻、社会福祉士、介護支援専門員）
	林　功	（大阪から公害をなくす会・大阪公害患者の会連合会事務局長）
	樋口　市蔵	（西淀川区地域振興会会長、社会福祉法人大阪市西淀川区社会福祉協議会会長）

職　員	上田　敏幸	（総務）
	大野みさ子	（経理）
	清水　智仁	（研究員）
	林　美帆	（研究員）
	藤江　徹	（研究員）
	矢羽田　薫	（研究員）
	鎗山善理子	（研究員）
	水野　順子	

2005年9月現在

あおぞら財団の基金には、大気汚染によって健康や生命を奪われた患者たちが起こした西淀川公害裁判の和解金の一部があてられています。

財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1　あおぞらビル4階
TEL：06-6475-8885　FAX：06-6478-5885
URL：http://www.aozora.or.jp/
E-Mail：webmaster@aozora.or.jp

無断転／掲載を禁じます。